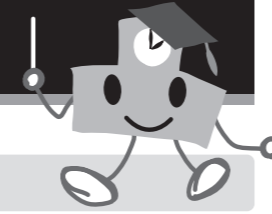


# 小学校の事例 西区 琴似小学校

## 照明を消し、環境について考える夜。地域とともにキャンドルナイトを実践。

児童が主体となりキャンドルナイトを呼びかける活動で環境意識が高まる効果が大きなものに。手づくりキャンドルの配布で地域との交流も広がる取組。



### はじまり 「さっぽろキャンドルナイト」に参加

本校は平成19年から「さっぽろキャンドルナイト」に参加している。キャンドルナイトは、照明を消し、キャンドルを灯すことで環境について思いをはせるイベントである。このイベントは平成16年、環境活動をしている様々な団体・個人が集まり、札幌市との協働のもと実行委員会を結成してスタートしたものの。以来、企業やレストラン・カフェの協力を得ながら毎年実施されている。



キャンドルナイト啓発1

### 内容 キャンドルとポスターを作り 地域にPR

キャンドルナイトは夏と冬の年2回開催される。本校では総合的な学習の時間を使って、キャンドルづくりや啓発ポスターの作成を行っている。夏は5年生が約700個のキャンドルと130枚のポスターを作る。そして、全校生徒及び商店街や公共施設など地域の方に配布して、午後8時から10分間、電気を消してキャンドルの灯りで過ごしてもらう「ライトダウン」を呼びかけている。キャンドルを作るための材料は区役所を通じて手配してもらっており、学校側の負担は今のところない。冬は4年生がアイスキャンドルを作り、区役所前などに設置した。点灯式(昨年は、ショッピングセンター施設内にて行われた)にも参加し、代表の児童がキャンドルナイトに対する思いなどを発表した。



キャンドルナイト啓発2

### 効果 照明の消えた商店街に 成果を実感

子供たちは、普段は見るのがない、明かりの消えているコンビニや商店を見て、自分たちの取組の成果を実感し、充実感を得ている。商店街の方々も協力的で、依頼の後、子供たちはとても喜んで帰って来る。中には「キャンドルがもっと欲しい!」という店もあり、後から余ったキャンドルを届けに行くこともある。札幌市広報番組「札幌ふるさと再発見」で紹介もされ、キャンドルや啓発ポスターを作成するようすが取り上げられた。

理解することで、子供たちはより高く意識をもって取り組むことができた。



キャンドルナイト啓発3

キャンドル作成という実体験だけでなく、「キャンドルを灯すことでエコを広める」という目的をしっかりと

### 課題 限られた時間を有効に

キャンドルナイトの取組は、限られた時間の中でいかに効率よく行うかが課題となる。キャンドルを作る工程や準備が大変であり、冬のアイスキャンドルは気

温などに左右されるため、ちゃんとでき上がるかどうか心配である。大きさや重さもあるため、子供たちにとっては大変な作業となっている。

### 今後 活動の趣旨をより深く理解する取組へ

5年生は宣伝と製作、それぞれ意味を理解して行っていると思うが、4年生は準備時間が少ないこともあって、宣伝活動は行わずキャンドルを作ることがメインになっており、「何のためにキャンドルを作るのか、どんな効果があるのか」など、活動の趣旨までは理解していないのではという懸念がある。今後は、キャンドルナイトの意義と環境行動の背景となる問題について、4年生にも理解がより進むよう指導していきたい。

少しずつではあるが、「続けていくこと」で環境やエコへの関心を地域へ広めていきたい。

また、1年生の段階から取組んでいければいいと思うが、活動の時間が確保できないなど、なかなか難しい状況である。



ラジオ出演

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

環境学習は、本やインターネットを見るなどして頭で理解するだけではなく、直接触れて実感することが大切です。例えば、本校でも取り組んでいるキャンドルづくりや、ライトダウンのようすを見ること、また、ごみの分別や花の栽培活動などがあります。子供たちが体験できるような取組を教員で作成し、環境学習を進めていきたいと思っています。